



2 学期スタート

予定より1日長い、37日間の夏休みが終わりました。昨年度の臨時休業のことを思い出すと、分散登校とはいえ、2学期をスタートすることができることをうれしく思います。この夏休みの間に、感染症の状況は厳しいものになっています。変異株の広がりにより、感染のスピードは早くなり、より一層の感染症対策が必要となっています。喚気、マスク、消毒はもちろん、無理をしないことや、自分が感染

していると仮定して、それでも他の人に感染させないくらいの一人ひとりの心配りが必要となります。また、だれにも感染する可能性があることも理解して、万が一の場合でも、本校の良い点である「想う」ことを意識した人との関わりをして欲しいと思います。

この夏休みも、多くの頑張っている生徒の姿を見ることができました。県総体、吹奏楽コンクールでの活躍、関東大会に進んだ部活動も多く、サッカー部の全国大会ベスト16をはじめ、目標に向かって、仲間、先生方と共に前に進み、最後の最後まであきらめず精一杯取り組む姿は輝いていました。2学期以降も、生徒のそんな姿を見続けていたいと思いました。しかし、今後の活動を行おうとした時、「例年通り」「昨年と同様で」ではいけないのが今の状況です。

『相手を「観る」ということを大切にしています。攻撃も守備も相手の状況や変化を観ながらプレーしていきたいです。』全国大会のパンフレットに書かれていた本校サッカー部のチームカラーです。何事も我武者羅に取り組んでいくことも大切です。でも、できないと思った時、不可能だと感じた時、冷静に周りの状況を観て判断し、できることから取り組んでいき、活路を見出していくことがより大切になります。観ようとする事により、想うことにより、目の前にはいない仲間の笑顔も見えてきます。今年の生徒会活動のスローガンは

「総想」。みんなの力を重ね合わせ、私たちにしかできない活動を創り上げていきましょう。

あきらめるのではなく、立ち止まるのではなく、少しずつでも確実に前に進んでいく。たとえ小さな一歩でも、その一歩ずつの積み重ねが未来を創っていく。人とのつながりが分断されて、すれ違いを生みやすい今だからこそ、東中みんなで、小さくても大きな歩みを進めましょう。



分散登校

2学期のスタートから9月10日(金)まで、分散登校を実施しています。出席番号の奇数の生徒と偶数の生徒が、隔日で登校するかたちで行っています。登校してくる様子を見ると部活動の朝練習もないため、大きく変化は無いようにも見えるのですが、教室での様子は、思う以上に生徒がいないような気がします。生徒の健康、安全が第一であることを考えると、密集を避けるため大切な取組であると思います。この期間は放課後の活動等はありません。

しかし、昨年度の臨時休業とは確実に違っています。それは、毎日、学校で生徒の声が聞こえ、生徒の笑顔に出逢えることです。2週間もクラスが半分になってしまうことに、淋しさを感じる生徒もいると思いますが、今が2学期のスタートであることも昨年度と大きく違うところです。1学期のコロナ禍を協力して乗り越えた仲間が、時間の違いはあっても、同じ教室にいる。前の日に取り組んだことを、次の日に登校した同じクラスの仲間が受け継ぐ。見えない分、逢えない分、「想い」ながら、心をつないでいく。東中はそうできる学校だと想っています。

だからこそ、感染症対策を徹底します。一斉登校を目指して、今が大切な時です。皆でがんばりましょう。



～ 思い出してみよう ～ 1学期終業式 生徒代表の発表 (抜粋)

小学生の時は、先生や親に言われたことをやることで精一杯でした。中学生では、自分の行動を自分で決められる機会が増えた分、新たに考えて選ぶ責任が加わった気がします。僕は学級委員長をやっていますが、皆が声かけや意見を言ってくれたおかげで、林間学校や生徒総会がとても充実したものになりました。夏休みでパワーアップした皆と一緒に、2学期を盛り上げていきたいです。

1年1組 石原鉄士

今年は2年生。先輩として、同じ北館で生活する1年生に2分前着席やあいさつの雰囲気だけでも伝えたい、その思いがありました。学年集会で訴えかけることで意識が高まりました。2学期は「東輝祭」があります。林間学校で見られた課題「指示待ち」を改善する必要があります。気付き、考え、行動し、感謝の心の4Kの意識を大切にして、今何をすべきか考え、自分から進んで行動できるようにしていきたいです。

2年1組 家登正宣

だんだん日常生活でも3年生を意識するようになりました。1つ1つの行事に、「最後」という言葉がつくようになってきたこと。1日1回は必ず「受験」や「進路」の話をされるようになったこと。だんだん、「次頑張る」が言えなくなってきたこと。入学した頃、笑顔で迎えてくれた3年生や、コロナの中でもできることを考えてくれた3年生が、今、私たちなんだと思うようになりました。これからある最後の行事は、後悔しないで取り組みたいです。

3年1組 小高彩友美